



写真を使つての執行部の丁寧な説明

です。町では、現状の狭い歩道では歩行者が危険であると、以前から道路管理者である県に歩道整備の要望を行つてきました。しかし、県としては、予算の都合もあり、事業の実施には至りませんでした。それでも町から県に要望を続け、ようやく平成30年度に歩道整備の事業として採択されることになりました。

現在は、歩道拡幅のための用地を取得するために土地の所有者との交渉が進められており、令和元年度内には用地の取得を完了して、令和2年度から工事を実施していく計画です。この工事が完了すれば、歩道の幅員は両側共に3.5メートルとなります。

惣領橋については、用地の取得は必要なので先に工事が進められることになり、早ければ今年度秋ごろには発注し、遅くとも令和2年度の早期に完成を目指しています。工事が完了すれば、惣領橋の飯野方面を正面にした左側に歩道が新設されます。歩道幅員は、現在の右側歩道と同じ幅員になります。逆に惣領橋の

右側にある歩道は、車道となり無くなりますが、代わりに惣領橋のすぐ右側に人道橋が設置され、これが歩道となります。

これからも子どもたちをはじめ、周辺住民の安全対策のため、県と協力し、早期完了を目指していきますので、もうしばらくお待ちいただきますようお願いいたします。



青木綾杏議員
(津森小6年)

問 益城のシンボルを建ててほしい

観光客が訪れたくなるようなもの。恐竜博物館のような子どもたちを呼べるような施設。熊本地震に関する資料館や体験館を建てるとしたら、他の市町村よりも先に益城町で作って欲しい。

答 町全体が熊本地震からの復興のシンボルとなることを目指す

町では熊本地震により多くの公共施設が被災しましたが、ほとんどの施設で復旧完了または復旧に向けた取り組みを進めています。

例えば、学校給食センターは熊本地震で被災し、皆さまに温かい給食

を届けることが出来なかった時期がありました。しかし、平成30年度には新しく建て替えられ、今年度からは、元通りのおいしい給食を届けることが出来るようになりました。

また、町の中心を東西に走る県道28号線の4車線化や、木山地区で道路などの改善や宅地の利用増進を行うための土地区画整理事業など、震災からの復興に向けた取り組みが進められており、将来、中心市街地の町並みが大きく変わっていくことが予想されます。

一方で、地震以降中止されていた地域の祭りの復活や、国の天然記念物に指定された断層を巡りながら防災について学習してもらう教育旅行などの取り組みが行われており、町外から訪れる人が増えました。断層の一つがある潮井自然公園には、津森小の横にあった四賢婦人記念館を移転新築し、震災の記憶を人々に伝えていくための拠点の一つとしても活用していきます。

さらに、世界的に人気の漫画「ワンピース」の作者・尾田栄一郎先生の協力により、県では「ワンピース連携復興支援事業」が展開されており、その事業の一環として、被災地に表わらの一味の銅像が設置されることが決まりました。今年度、交流情報センター敷地内にサンジの銅像が設置されることが決定しています。このように、震災以降、災害復旧

による施設の建て替えや新設、新たなにぎわいづくりの取り組みにより、多くの施設などが生まれ変わり、町の状況が変化していています。

「益城のシンボル」については、すでに町にあるものや、これから作られていくものの中でシンボルになり得るものがあり、これらの中からどれか一つをシンボルとすることも可能だとは思いますが、生まれ変わる公共施設や観光資源などを活用し、町の最上位計画である総合計画などに掲げる施策を展開し連携させ、単に町の姿を取り戻すだけではなく、さらに魅力ある町へ発展させることで、町全体を熊本地震からの復興のシンボルとし、観光客が訪れたくなるような町にしなければならぬと考えています。

また、杉堂、堂園および谷川の3つの断層を活用した教育旅行や、サンジ像の活用により、子どもたちにも来てもらえるようなまちづくりをしていきたいと考えています。



答弁に真剣に聞き入る子ども議員たち